

## (1) 政治学科へ

1934(昭和9)年4月、丸山眞男は東京帝国大学に

入学した(画像:安田講堂前の丸山〈丸山彰氏提供〉)。

学生の間には、高校までで学生生活は終わりで、

大学は砂漠のような無味乾燥としたものとする

風潮があった。丸山は長谷川如是閑から「さんざ

ん悪口を聞かされ」ていたが、入ってみると講義

が面白く、大学も捨てたものではないという感想

を抱いた。高等学校時代の丸山はドイツ文学を専

攻することを志望していたが、一高のドイツ語教

師・菅虎雄と父の忠告に従って法学部に進学した。経済学部を選ばなかったのは、京都帝

国大学経済学部に進んだ兄の後を追うのが癪に障ったからである。法律は嫌いだったた

め、法学部では政治学科に所属した。しかし、実定法の解釈学を勉強したことは非常によ

かったという。大学では一高時代の友人のほか、磯田進(労働法学者)、宇佐美誠次郎(財政

学者)、平沢道雄らと新たに親交を結んだ(肩書はいずれも後年のもの)。

